

おかえり

特集

◆家族と過ごす時間を求めて
田舎暮らしで
大切にしているのは「地域密着」

- ひきみ瓦版
- 交流から滞在、そして定住へ
- 定住アドバイザー
- 空き家に関する各種事業

～交流から滞在、そして定住へ～

ちよこつと匹見を体験したい方は… ◇農家民泊…匹見町には、3軒の農家民泊があります。農家に泊って、のんびりゆったり過ごしてください。

民泊「三四四」



《体験内容》
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など
■体験料 1泊2食 5,000円
■益田市匹見町道川イ214
Tel/Fax. 0856-58-0020

農家民泊「内容とちの郷」



《体験内容》
ワサビの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験（こんにやく、ワサビの醤油漬けなど）、もちつきなど
■体験料 1泊2食 5,000円
■益田市匹見町石谷口561
Tel/Fax. 0856-56-0589

農家民泊「長尾原のへや」



《体験内容》
農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、ようかん、ジャムなど）
■体験料 1泊2食 6,000円
■益田市匹見町澄川イ789
Tel/Fax. 0856-56-0471

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

- 《使用者の条件》
(1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
(2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人
《使用期間》
1カ月以上3年以内
《使用料》



施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(1)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。
《使用について》
施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の方は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出ください。
(詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。)

匹見への定住をお考えの方は…

◇就業支援
益田市外から移住し、農林水産業へ就業することを目的として産業体験を行う人に、「益田市農林水産業就業支援助成金」制度による支援策で、就業と定住を支援しています。

◇住まい
空き家や公営住宅をご紹介します。

空き家に関する各種事業

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の2分の1以内(上限50万円)を補助します。ただし、経費の額が50万円以上であるものに限ります。

■広島県広島市からIターン
■島根県松江市出身
■定住開始 平成5年2月
■現住所 匹見町匹見イ6674
■家族 6人(両親、息子、娘2人)



はじめの一步を応援！
住定アドバイザリ

■大阪府豊中市からIターン
■大阪府出身
■定住開始 平成15年5月
■現住所 匹見町澄川
■家族 3人(夫、娘1人)



※定住アドバイザーとは、匹見町にIターンされた方が、自らの定住体験や地域の習慣心構えなどについての助言を行う制度です。アドバイザー相談をご希望の方は、下記までご連絡ください。
※相談受付は平成24年3月31日まで。

■広島県広島市からIターン
■広島県出身
■定住開始 平成7年7月
■現住所 匹見町道川イ307
■家族 4人(夫、娘2人)



高田純子(たかた・じゅんこ)さん

定住・UIターンに関する問い合わせ先
益田市匹見総合支所地域振興課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260
電話 0856-56-0301
FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.town.hikimi.shimane.jp/>

家族と過ごす時間を求めて

今から12年前、大阪から益田市匹見町に移り住み、念願の田舎暮らしをしている出口勝さん(55)・由美さん(49)夫妻。田舎暮らしⅡ「地域密着」と考える2人は、自治会の役だけでなく、様々な取組に、地域の人たちと一緒に汗を流している。



愛猫2匹と古民家で暮らす、出口勝さんと由美さん

決断の時

共に大阪出身。勝さんは建築内装業に携わり、准看護士として働いていた由美さんは、結婚を機に退職し、子育てに専念する日々だった。

早朝から夜中まで働き詰めだった勝さん。「子どもたちと話をする時間はなく、参観日や子ども行事に参加することもできなかった」。子育てのことで、時に由美さんとギクシャクすることもあったという。

また、都会生活で、由美さんはよく体調不良にもなっていた。その頃、田畑で遊んだ幼少の思い出が脳裏によみがえり、「大自然の中で、子育てをしたい」。そんな思いが、由美さんの中で膨らんでいった。同じ頃、「家族と過ごす時間を増やしたい」と考えていた勝さん。由美さんから「けしかけられ、田舎暮らしの道を選択した。

「ここだったら住んでもいいかな」

勝さんは、「体力勝負ができて、他の仕事と違い、経験不問の」林業の道に、生活の糧を求めた。四国や鳥取などでも職探しをした末、ハローワークで高津川森林組合の求人にとどろついた。

勝さんが一人で下見に訪れた際、「益田市内から車で、谷が迫る川沿いの国道を山奥に入っていくとき、この先に人が住んでいるのか、めっちゃ不安になりました」。

匹見町の第一印象は、「田舎の中の都会。山奥でありながら拓けた場所もあり、僕らのイメージする田舎にびつたりでした」。「組合の方からは、移住には家族の理解が必要だから、『家族を連れて、またおいで』と言われました。再訪し、運動公園から眼下に広がる景色を眺めた際、娘が『ここだったら住んでもいいかな』と言ってくれました」。

平成12年5月、家族4人で匹見町へ移住した。地域の人から、「よう来てくれた」と歓迎され、有難かったという。

林業は、死と隣り合わせの危険な仕事。夏には脱水症状に悩まされ、以前より収入も減ったが、現場向きの勝さんにはびつ

たりの仕事だった。

丸9年は町の中心部にある町営住宅で生活し、「西六会」と呼ばれる親睦会に入り、草刈りや旅行にも参加。地域に溶け込んだ。お嬢さん2人も、大自然の中のびのびと育った。

将来はここに住みたい

当初から、古民家に住みたいと考えていた2人は、縁あって益田市の空き家バンクに登録されていた物件に住むこととなり、平成21年8月、町内の下道川下へ引越した。

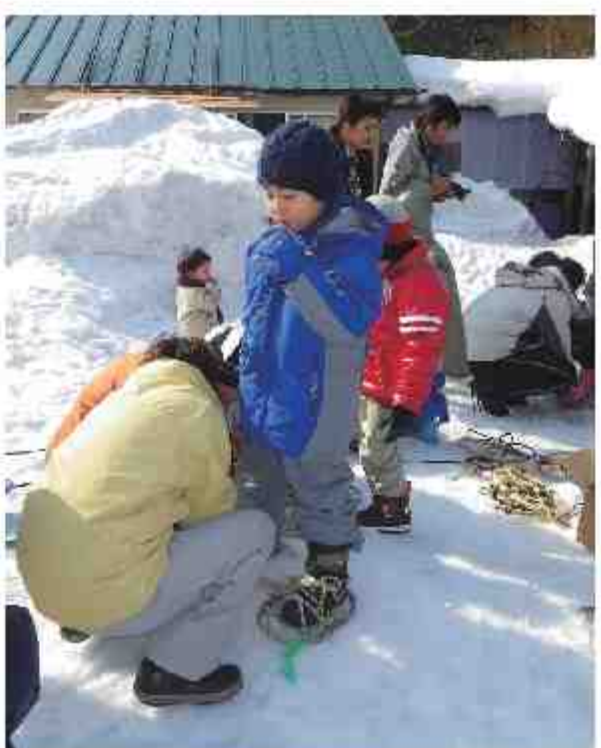
地域の人たちは、出口さん夫妻を温かく迎えてくれた。2人より先に京都から移住した先輩夫婦の存在も心強く、「いろんな面で憧れの存在」である。

「より地域に根ざした暮らしをしよう」と、下道川下で取り組むレンコン栽培や、そば打ち同好会にも加入し、積極的に地域と関わりを持つている。

「都会は遊ぶところ。大阪に戻る気はないです」と話す由美さん。成人し、現在は県外で暮らすお嬢さんも、「匹見に帰ると落ち着く。将来はここに住みたい」と言ってくれるという。出口さん一家にとって、匹見は最高の住処となっている。

田舎暮らしで大切にしているのは「地域密着」

参加者募集！「真冬の匹見山里体験」



しみましたがⅡ写真Ⅱ、今年はどうでしょう。雪遊びの内容は積雪量が決まりますので、当日までのお楽しみです。

開催日時は2月11日(土)10時から14時30分、参加料大人2千円・小学生1千円。先着15名。問い合わせは同センター(電話0856・56・1144)。

しの際は是非お立ち寄り下さい。開館は9時から16時。休館は月曜と祝日の翌日。無料。問い合わせは電話(0856)56・0250。



ふるさとは今

ひきみ瓦版

「第12回内谷とちの実交流会」開催

とちの実を長期間清流にさらしたり、木灰汁に漬けてアクを抜く、手間のかかるトチ餅作りを匹見小の5・6年生が昨年12月、体験しましたⅡ写真Ⅱ。加工グループ「内谷とちの実会」の、人生の大先輩たちと作った美味しいトチ餅に感動する子どもたち。本物の味を子どもの時に体験しておくことは大事です。午後は巨木・コウヤマキまでハイキング。その後、和太鼓奏



庄屋建築史上、貴重な造り

旧割元庄屋「美濃地屋敷」

益田市の東の玄関口、匹見町道川地区。国道191号を走行すると、地区の中心部に大きな茅葺きの建物を見つけることができます。数軒の庄屋を束ねた大庄屋として知られる旧割元庄屋「美濃地屋敷」Ⅱ写真Ⅱです。1855年当時の建築様式が復元(一部新築)され、一般公開されています。

見地方の庄屋建築史上、大変貴重な造りを見学できるほか、米倉には、村況の明細帳や検地帳、骨董品や家財、衣類、食器類などが展示されています。

屋敷内では、美濃地家に伝わる漆器を使った精進料理も味わえ、県内外から沢山の人が訪れています。

現在冬季休業中で、3月1日の開館予定です。お近くにお越

定住ツアーを行いました

田舎暮らしや就農を考える都市住民が増える中、益田市匹見町は昨秋、2つの定住ツアーを行いました。

11月下旬、高津川流域の益田市、津和野町、吉賀町が連携し、「高津川流域田舎暮らし体験ツアー」(3泊4日)を行いました。ツアーには、東京都と神奈川県から夫婦2組が参加し、匹見町内では、移住者との意見交換や、トチ餅作りⅡ写真Ⅱ、農家民泊などを体験。



また12月上旬の「冬の田舎に泊まるin匹見」(1泊2日)には、遠くは三重県などから4名が参加。定住情報説明会Ⅱ写真Ⅱや、石見神楽の鑑賞などを行い、匹見町での暮らしや住民の温かな人柄などに触れていただきました。



今回のツアーが匹見町への移住のきっかけになればと願っています。